

EigenD バージョン 1.1 (1.1. 24) 追加説明書

2010.10.27 更新

バージョン 1.1.では、Belcanto スクリプトを使用することができます。また、VST インストルメントのソフトウェア音源も使用できます。

ただし、VST については一部のソフトウェアのみ動作します。動作しないか、動作が不完全なものもあります。AU 規格も対応しているソフトウェアでは AU をご利用ください。

なお、V1.1. 23 は P I C O ではご使用になれません。

バージョン 1.1 のメニュー

バージョン 1.1 ではセットアップを開くウィンドウがまず立ち上がります。まず、以前に開いたセットアップから開きますが、別のセットアップを選んで、Load ボタンで新たに開くことができます。セットアップがロードされると、メニューバーに EigenD、File、Window、Tools のメニューが表示されます。

EigenD は表示とソフトウェアの終了 (Quit eigenD) に使用します。

File では他のセットアップのロード (Load Setup) と設定の保存 (Save Setup) があります。保存の場合は Save のウィンドウが開き、保存ファイルを指定するか、新たにファイル名を指定します (New)。いろいろ設定を変えて、それを残しておきたい場合は必ず保存してください。About EigenD はバージョンを表示します。Report Bug はバグリポートをインターネット経由で直接出します。

Window では表示可能なウィンドウを表示させます。

Tools は主要な機能を選択するメニューです。次に個々のコマンドを説明しましょう。



Run EigenBrowser

これはバージョン 1.0 でも使用するブラウザを同様に開きます。

Run Plugin Scanner

最初に新しいバージョンを立ち上げたときにも起動する、AU、VST のプラグインを調べて EigenD に登録するソフトウェアです。Scan ボタンで検索を開始します。新しいプラグインをインストールしたときは、必ず使用してください。

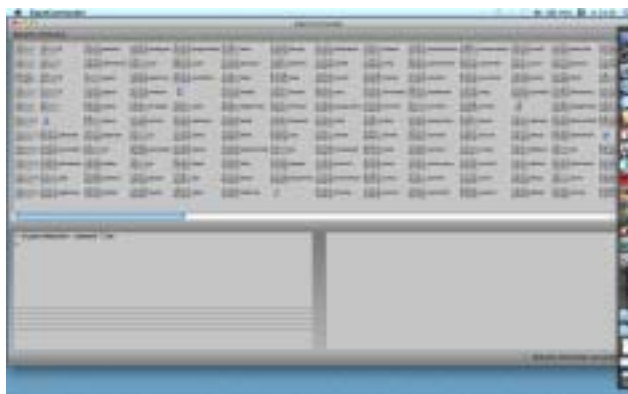


Run EigenCommander

Belcanto という言語を用いてスクリプトを入力し、アイゲンハーブ本体では操作できない設定を可能にします。たとえば、「ベンドレンジの設定を変える」といったことができます。本格的に使用するためには、Belcanto 言語を学ぶ必要がありますが、ファクトリー設定では Factory Script ファイルが用意されていて、スクリプトを入力しなくてもいくつかの機能が利用できます。

Factory Scripts フォルダをブラウザに表示させるには、次のスクリプトを入力して Enter キーを押してください。

スクリプトは EigenCommander ウィンドウの左下のプロンプト(>)へキーボードで入力します。一字も間違わないように！！



```
> eigenbrowser , interpreter hey script browse
```

正しく入力すると、右側に黒い字でそのスクリプトが表示され、受け付けられたことを示します。赤い文字が出た場合は、入力が間違っていてエラーが出たことを示します。

正しく実行すれば、ブラウザに Factory Scripts フォルダが表示されるでしょう。そこをクリックしてスクリプトファイルを表示させてください。その中から、たとえば、Pitch Bend を選んでクリックすると、キーのピッチベンドの量を変更するスクリプトが表示されます。それらを選んでクリックすると、すなわち2度クリックすると、実行されてキーのピッチベンド量が変更されます。実行して実際に演奏して確かめてみてください。巻末に、スクリプトの応用例を紹介しています。

バージョン 1.1. 24 の Setup メニュー

Load 及び Save のウィンドウに Default Setup というチェックボックスが用意されています。これは、保存する、あるいは保存されたセットアップファイルを常に開くように指定するものです。チェックを入れると、次に立ち上げる時は必ずそのセットアップファイルが開きます。

Load のウィンドウでは他に Edit と Delete ボタンが追加されています。Edit ボタンはセットアップファイルのタグを編集して再保存するために使用します。Delete ボタンは選んだ不要なセットアップファイルを削除するのに使用します。



インライン FX の GUI の表示について

V1.0.14 インストール時に追加のセットアップファイル PICO 1 の使用では、各楽器のモードでインライン FX GUI 表示機能がありました。しかし、V1.1..x では、その表示キーは機能しません。そこで、Factory Scripts フォルダに ALL Inline FX GUI show が用意されていますので、そのスクリプトを使用してください。

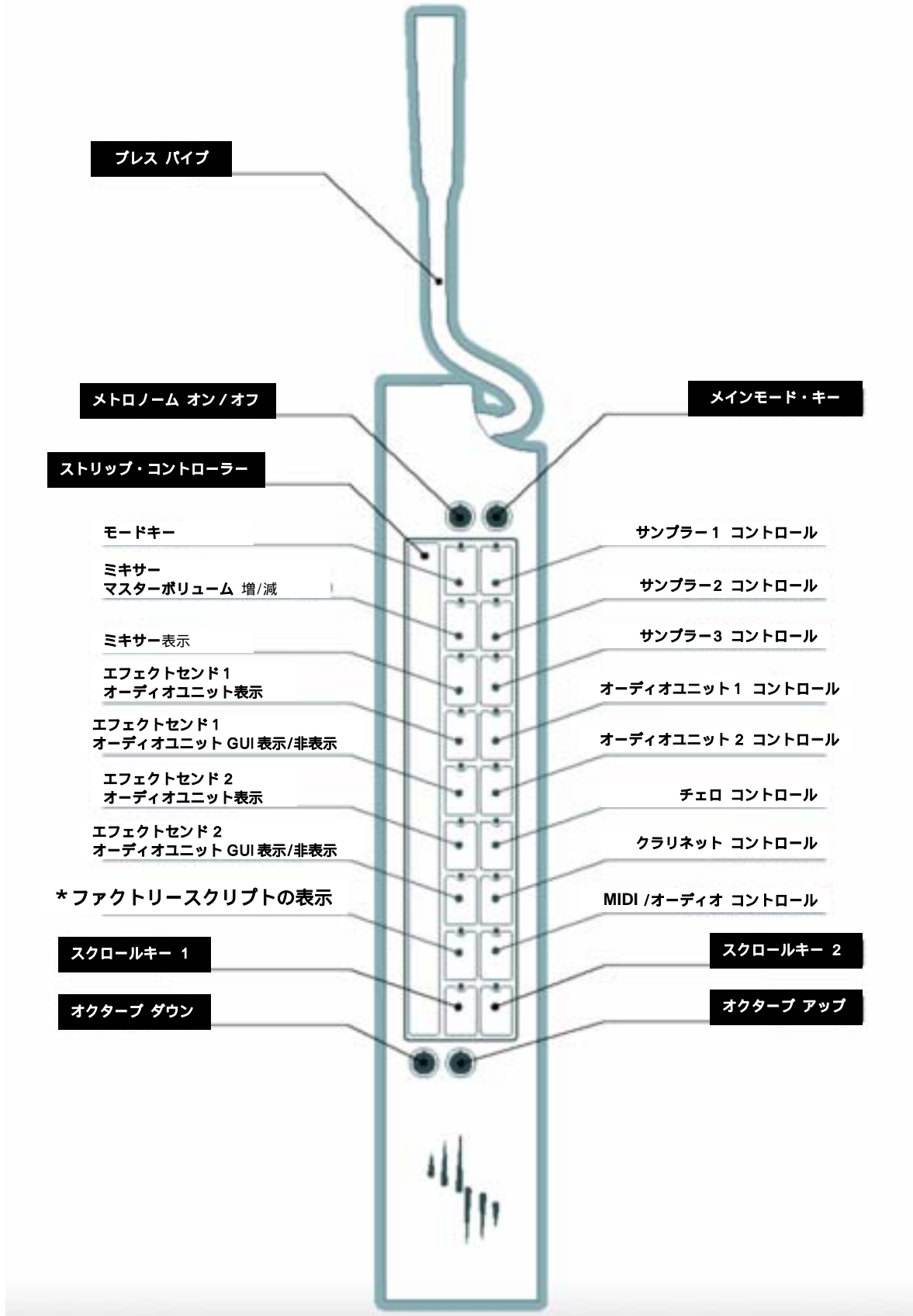
オーディオユニット パラメーター経路設定

バージョン 1.1 ではオーディオユニット GUI の左上にある Configure をクリックして、図のようなパラメーター経路マトリックスを開きます。図の例では、3つのコントローラーで、オーディオユニットの3つのパラメーターをコントロールするように設定され、値が表示されています。値は、ドラッグして上下することで、そのコントロール量を変えられます。



楽器とエフェクトのコントロールの追加機能

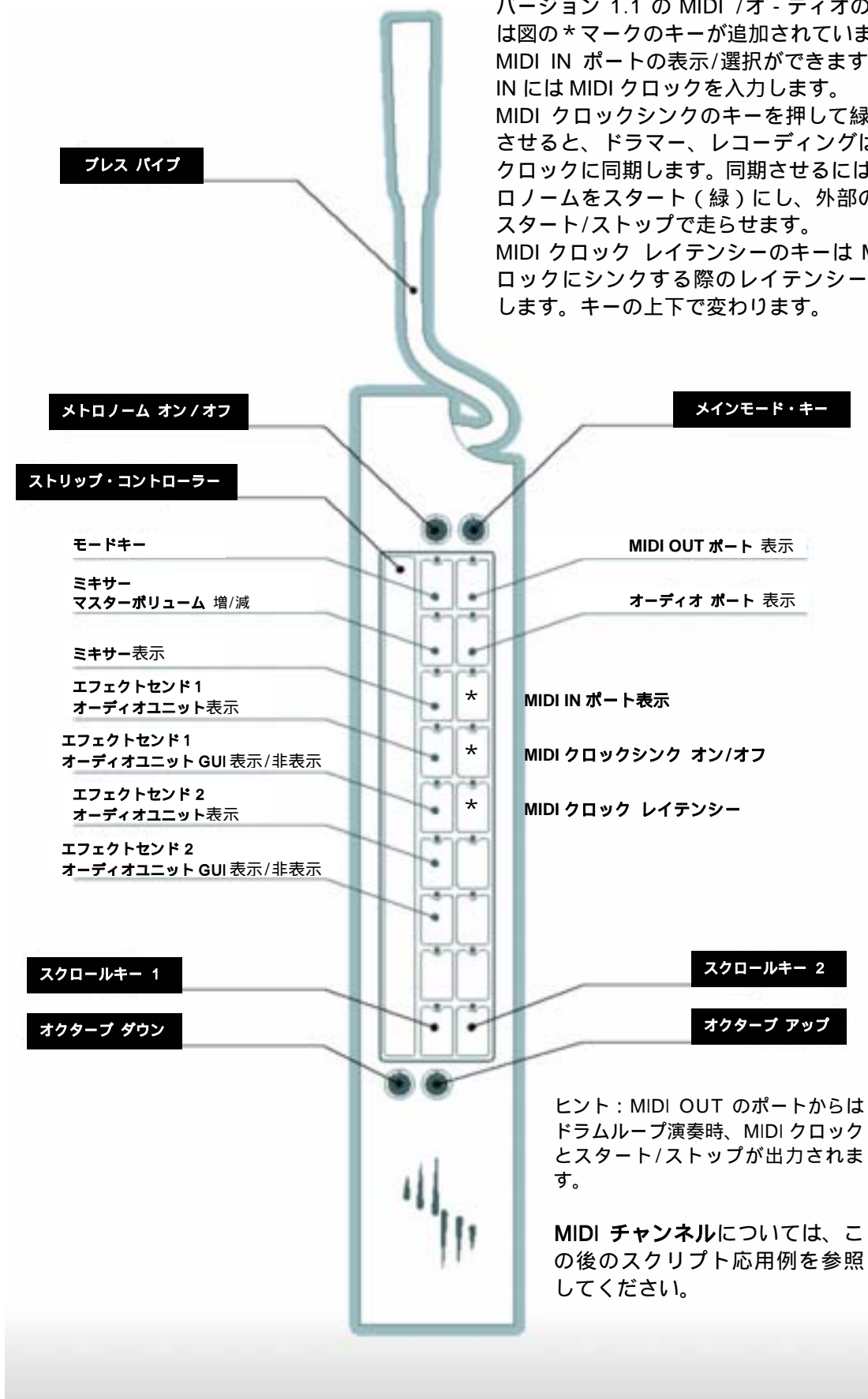
Eigen Commander で説明した Factory Script (ファクトリースクリプト) のブラウザ表示が、「楽器とエフェクトのコントロール」のモードで選択できます (下図 * マーク)。



MIDI/オーディオ コントロールの追加機能

バージョン 1.1 では MIDI IN の機能が追加されました。

バージョン 1.1 の MIDI /オ - ディオの設定では図の*マークのキーが追加されています。MIDI IN ポートの表示/選択ができます。MIDI IN には MIDI クロックを入力します。MIDI クロックシンクのキーを押して緑に点灯させると、ドラマー、レコーディングは MIDI クロックに同期します。同期させるには、メトロノームをスタート（緑）にし、外部の MIDI スタート/ストップで走らせます。MIDI クロック レイテンシーのキーは MIDI クロックにシンクする際のレイテンシーを調節します。キーの上下で変わります。



アイゲンハーブから DAW に MIDI 出力するには

まず、アップル IAC ドライバで MIDI 内部バスを作る必要があります。そのためには、アプリケーション/ユーティリティ/Audio MIDI 設定を開きます。

- 1 . Audio MIDI 設定が開いたら、MIDI ウィンドウを開きます。
- 2 . IAC ドライバ・アイコンをダブルクリックし、「IAC ドライバのプロパティ」を開きます。
- 3 . EigenD では日本語のファイルを検出できないので、装置名「IAC ドライバ」を英文の「IAC driver」に書き換えます。
- 4 . 「装置はオンライン」のボックスにチェックを入れます。
- 5 . 「ポート」の右下の「+」ボタンをクリックして MIDI 内部バスを作ります。
- 6 . 作成されたポート名は日本語なので、「IAC bus1」のように英文に書き換えます。

作ったバスを EigenD で MIDI 出力に設定する必要があります。EigenD の Browser を開きます。

- 1 . 「楽器とエフェクトのコントロール」のモードにします。
- 2 . 「MIDI/オーディオコントロール」のモードを選びます。
- 3 . 「MIDI ポート表示」キーを押します。
- 4 . 「IAC driver IAC bus 1」(例)をクリックします。緑にマークがつきます。
- 5 . 「MIDI 出力」モードにします。

これで、IAC バス経由で DAW にアイゲンハーブの演奏をレコーディングできます。ただし、現在のソフトウェアでは DAW の MIDI 出力でアイゲンハーブの音源を演奏することはできません。

MIDI IN の利用

追加された MIDI IN 機能では、MIDI クロックによるシンクが利用可能になったことを説明しました。また、MIDI IN でアイゲンハーブ内の音源は演奏できないことを述べました。ここでは、MIDI IN のメッセージで利用できる機能を紹介します。MIDI IN に入力された特定の MIDI ノートメッセージは次の表で示すアイゲンハーブの機能の設定に利用されます。

機能	MIDI ノート#
ロード セットアップ 'user 1'	12 = C
ロード セットアップ 'user 2'	13
ロード セットアップ 'user 3'	14
ロード セットアップ 'user 4'	15
ロード セットアップ 'user 5'	16
ロード セットアップ 'user 6'	17
ロード セットアップ 'user 7'	18
ロード セットアップ 'user 8'	19
ロード セットアップ 'user 9'	20
ロード セットアップ 'user 10'	21
メトロノーム スタート/ストップ	59
トニック設定 (転調) C	60 = 中央 C
トニック設定 (転調) C#	61
トニック設定 (転調) D	62
トニック設定 (転調) D#	63
トニック設定 (転調) E	64
トニック設定 (転調) F	65
トニック設定 (転調) F#	66

機能	MIDI ノート#
トニック設定 (転調) G	67
トニック設定 (転調) G#	68
トニック設定 (転調) A	69
トニック設定 (転調) A#	70
トニック設定 (転調) B	71
スケール設定 major	72 = +1 oct C
スケール設定 harmonic minor	73
スケール設定 melodic minor	74
スケール設定 chromatic	75
スケール設定 blues	76
スケール設定 pentatonic major	77
スケール設定 diminished	78
スケール設定 whole tone	79

MIDI OUT の仕様の訂正

日本語マニュアル V1.0 において

「キープレッシャー：MIDI コンティニューアスコントローラー 33 (CC 33)」

とありますが、キープレッシャーには初期設定では割り当てはなく

MIDI コンティニューアスコントローラー 33 (CC 33) は、キーヨーのモジュレーションホイール出力の LSB として出力されます。

スクリプト応用例

キーのベンドレンジを楽器ごとに変える

ここでは、直ぐに使いたいと思われる、楽器個々にベンド幅を変えるスクリプトを紹介します。まず、アイゲンコマンドを開いてください。そして、以下に紹介するスクリプトを入力してください。

最初のスクリプトは：

```
scaler X hey
```

X のところには、変更したい楽器の番号を入れます。たとえば次のようになります。

```
sampler 1 : X=1
```

```
sampler 2 : X=2
```

そして

```
audio unit 1 : X=4
```

そして

```
cello : X=6
```

```
clarinet : X=7
```

となります。

次に、ベンドレンジを次のスクリプトで指定します：

```
k bend range to Y set
```

Y のところには半音単位のベンド幅の数値を入れます。たとえば、上下 2 半音であれば、
'k bend range to 2 set'
となります。
Y を 0 にすれば、ベンドは掛かりません。

上記の 2 つのスクリプトは常にセットで使用します。

キーのベロシティをコントロールする

サンプラー

サンプラーは演奏時のベロシティをオン/オフできます。

最初のスクリプトは：

```
ahdsr X hey
```

X のところには、変更したい楽器の番号を入れます。たとえば次のようになります。

```
sampler 1 : X=1
```

```
sampler 2 : X=2
```

```
sampler 3 : X=3
```

次のスクリプトでオン/オフを指定します：

オンは velocity sensitivity set

オフは velocity sensitivity un set

となります。

中間の感度を設定するには下記の Y のところに 1 以下の数値を入れます。0 ではオフと同じ、1 でフルです。

```
velocity sensitivity to Y set
```

オーディオユニット

オーディオユニットは多くの場合、ベロシティをユニット自身が選択的に使用するため、アイゲンハープではベロシティのオン/オフではなく、カーブを設定できます。

最初のスクリプトは：

```
audio unit X hey
```

X のところにはオーディオユニットの番号、1 または 2 が入ります。

次のスクリプトでベロシティーのカーブを指定します。

```
velocity curve to Y set
```

Y には 0.1 から 10 までの数値を入れ、カーブを指定します。1 がリニアで、10 ではピークが最大になり、小数点以下はピークが減ります。

なお、サンプラーもカーブの設定ができます。

最初のスクリプトは：

```
sampler X hey
```

となります。

MIDI OUT の MIDI チャンネルを設定する

MIDI OUT 1、2 の設定において、バージョン 1.1.24 では MIDI チャンネル初期設定は 1 になっています。ここでは、そのチャンネル設定を変更する方法を述べます。

最初のスクリプトは
midi converter 1 hey

次のスクリプトで MIDI チャンネルを指定します。

midi channel to Y set

Y に 1 から 16 のチャンネル番号を入れます。ここを 0 にすると PM のモードになります。

さらに、MIDI コントローラー（ストリップ/プレス）の MIDI チャンネル設定は別になっていて、MIDI コントローラーの設定も前節と同じ MIDI チャンネルに設定する必要があります。

最初のスクリプトは
midi controller 1 hey

1 はストリップのコントローラー出力です。

次のスクリプトで MIDI チャンネルを指定します。

midi channel to Y set

Y には前節と同じチャンネルを入れます。

さらにプレスパイプのコントローラー出力は 2 ですから

midi controller 2 hey

ここでも前節と同じチャンネルを指定するため

midi channel to Y set

となります。

* PM : このモードでは複数のキーを同時に押すと、押された順にキーの MIDI チャンネルが変わっていきます。そのため、受信する MIDI 音源が複数チャンネルをサポートしていないと、発音が飛んでしまいます。

スケール設定をスクリプトで行う

スケール設定はスケールコントロールモードで選択できますが、スクリプトでの設定は 8 つの設定モードに限定せずに実行できます。

最初のスクリプトは :

kgroup 1 hey

次のスクリプトでスケールを指定します。

scale to Y set

Y にはスケール名を入れます。スケール名は major、minor、blues、chromatic など、ブラウザで表示され、選択できる全てのスケールが使用できます。つまり、スケールコントロールの選択ボタンに割り当てられていないスケールも使用できます。

その他のスクリプト例は「ファクトリースクリプトの説明書」を参照してください。